

続・新井満  
〈作家〉

# KOBEを歩く〈前編〉

撮影・来間孝司



4月16日、神戸ポートピアホテルでの、兵庫・生と死を考える会のセミナー「千の風になつて」のために神戸にやって来た新井満さん。

開港して間のない神戸空港に降り立った。

翌日、神戸っ子スタッフと共に、神戸西部を散策し、さらに明石海峡大橋を渡り淡路島へと向かう。今回は、新婚時代を神戸で過ごした奥さまのノリコさんも一緒に。

「明石海峡大橋」  
スゴイものを造ったもんだね！

まず訪れたのが舞子公園。明石海峡大橋の神戸側袂の臨海公園として整備されている。

「舞子は、子どもたちが小さい時に来て以来かなあ」と言う満さんに、「初めてですよ」と奥さま。「ぼくはどうも、須磨や舞子、明石をごっちゃにしているみたいだなあ」。

明石海峡大橋を下から眺める。「こうやって見上げると大きなあ。スゴイものを造ったもんだね」。大型船で大橋をくぐった経験はあるという満さん。いつかは渡りたいと思っていたそう。



「明石海峡大橋を初めて見たいとスゴイもの造ったネ」と新井満さん

「そして昨日は、神戸空港へ大橋の上空を旋回して着陸。交通の便については、まさに隔世の感です」。

「アッという間に渡ってしまふより、こうやって眺めて橋の向こうに思いを馳せるほうが情緒があるかも知れませんね」と奥さま。

#### 「移情閣」

昔の人は社会貢献のために私財を使った

「いい公園になったね。当時のぼくのイメージでは、遠くから眺める移情閣は雨ざらし状態だったような気がする」。

舞子公園内の孫文記念館「移情閣」は神戸経済に貢献した華商・呉錦堂の「松海別荘」。その東側に造られた八角三層の中国式楼閣が六角に見えることから「舞子の六角堂」として親しまれてきたもの。84年「孫中山記念館」として一般公開されるようになり、明石海峡大橋の建設に伴って現在の場所に移転された。100年にわたって、明石海峡を見守り続けてきた建物といえる。残念ながら、外装



移情閣の2階で



孫文の書を見る

工事中で養生シートに覆われているが、「孫文記念館」では孫文と神戸の関わりをいろいろ知る。華僑が持っていた大きな力と、当時、神戸の街が中国の人たちを大切にしていたことが分かる。

「志ある昔のお金持ちは、私財を有効に使ったもの。自利のためでなく、社会貢献のためにね。マツチ王といわれた瀧川辨三・儀作にしても然り。新しい中国の父となる孫文を応援しようと思ひ、そのためにお金を使おうとしたんだからね」。

孫文といえば、夫人・宋慶齡との恋。

「“情け”が“移る”なんてロマンチックな場所を舞台に、日本と中国“淡い恋の架け橋”をテーマに小説…、そして大ベストセラーになって舞子公園に記念碑を建てる。いいなあ、誰か書かないかなあ」。

満さん、ぜひご自身で書いてくださいよ！

### 「五色塚古墳」

ここが神戸の先住民族の地

「五色塚古墳」は、約1994





メートルの前方後円墳。推測するに約1600年前の最新技術を結集して造られた建築物と、20世紀の技術の粋を集めて造られた大橋を重ね合わせて観る壮大な光景。ところが内部見学は「定休日」。

「神戸で一番古い先住民族の集落がある所から橋をかけたなら、そこにも五色浜があった。不思議だね。それにしても、古墳にも休日があるとは思わなかったなあ…（笑）」。先住民族もお客さまをお迎えるのが毎日では疲れるのでしょう。

忙しい現代人も、ここでひと休み。"知る人ぞ知る"美味しいイタリアンレストランでゆっくり昼食。

その後、満さん初体験の"一直線の道でつながる淡路島"へと向かう。

(つづく)

文・乾世津子



Beyond Generation  
ANNIVERSARY  
100<sup>th</sup>  
*kamine*  
SINCE 1906 KOBE



上根亨・カミネ社長

上根保・カミネ会長

カルティエジャパン・ザ・グループ・ヘイグ社長

「美しさ」と「正統」。

カミネのイズムは、  
この2つの言葉に集約されている。  
祖父や父親が購入した時計を  
何十年の時をへて、  
ご子息やお孫さんたちが修理にお持ちになる。  
カミネも世代を超えて、販売したものに  
責任をもつため存在しつづける。

2006年5月13日、ホテルオークラ神戸で  
カミネ創立100周年のパーティが開催された。  
カルティエジャパンのギャビン・ヘイグ社長は  
「カミネとは信頼でつながっている」と  
賛辞を送った。

さらなる100年をめざして、  
カミネの新たなストーリーが、今はじまった。





関西学院初等部完成イメージ



# 関西学院初等部



KWANSEI GAKUIN

2008年春  
誕生

初代関西学院初等部長(就任予定)  
磯貝曉成氏インタビュー





## 宝塚で育まれる 新しい関学の魂

—— 初等部（小学校）の概要  
はどのようなものでしょうか。

■磯貝 兵庫県に設置認可申請準備のため、まだ計画段階の話ですが、2008年4月に開設の予定です。宝塚ファミリーランドの跡地の一角に、約13500平米の敷地を得ることができました。そこに関西学院を象徴する、ヴォーリズの建築思想を踏襲した校舎を建てます。

定員は、1学年30人3クラスで、計540人を予定しています。初年度は1年生から3年生までの3学年でスタートし、全学年揃うのは2011年になります。男女共学です。

—— 総合学園としての関西学院にとって、初等部設置はどのような意味があるのでしょうか。

■磯貝 初等部で学んだ児童がたくましく生きることによって、関西学院の中等教育・高等教育は変えられていきます。進学のための学習ではなく、真理を探究するための学習を始めることが、初等部では可能だからです。新しい「こころ」を感じた初等

部出身の生徒がやがて中学部、高等部、そして大学へと進学します。その大きな流れを受け入れ生かす体制も整っていくと思います。

## 風、光、力、 こころの教育

—— 初等部での教育の基本は。

■磯貝 関西学院はキリスト教主義にもとづく全人教育を建学の精神としていますが、それを受け継ぐだけでなく、関西学院そのものの魂を初等部から発信していきたいと考えています。

現在、少年少女たちの理解しがたい逸脱した行為が、新聞などで報道されています。個々に原因があると思いますが、なぜそれが起こったのか。一つに、幼い時代の小さなこころに与えられたべきものが与えられていなかったからではないでしょうか。

初等部では子どもの「こころの育ち」に寄与する教育を目指します。

—— どのような児童を育てていこうとお考えですか。

■磯貝 この社会の99パーセントは、「見えるもの」によつ

て確かめられ、また価値が計られています。しかしあとの1パーセントに「見えないもの」があると思います。それは、信頼や友情、愛、優しさだったり、不信や不安、憎しみだったりします。今の時代、この「見えないもの」が問いかけてられていない、もしくは問いかけてきていない。それならば、関西学院がそこに焦点を当てて、「見えないものにこころを傾けられる教育」を初等部で試みてみたい。私たちはこのような小学校・小学生を求めているのではないかと、世に問いかけてみたいのです。

期せずしていろんなところで、日本の従来の教育姿勢が見直されています。目新しいことに走るのではなく、もつと基本的なことを繰り返してみようと思えています。私は、それは「咀嚼する時間」を大切にすることが求められているのだと理解しました。

—— そのような教育の実現に向け、具体的にどのようなアイデアをお持ちでしょうか。

■磯貝 「関学タイム」と名づけた、4つの時間帯を毎日設けようと考えています。

一つは「こころの時間」。こ



ころを学ぶ、礼拝の時間です。見えないものに心を傾け、自分を振り返ってみる時間です。キリスト教の教えを通し、関西学院創立のころを学び、児童一人ひとりのころに「生きる」とを問いかけます。

そして「風の時間」。風は目には見えませんが、伝える力を持っています。しかし伝えるためには伝えるものを持つていないといけない。そのためにはまず聴く力をつける必要があります。伝える力を育むために「聴読の学習」に力を入れます。

さらに「光の時間」。光は誰にでも差し込みます。私はここに国際教育のヒントがあると思うのです。国際化とは、多くの外国人と会ったり、日本を出たりしなければ学べないのかというと、そうではありません。国際というのには「はざま」に起こる出来事を言います。子どもは非常に直線的で、違いに対して敏感に反応します。しかしその異質さを異質さとして受け入れて、お互い理解しあっていく必要があると思います。違いをなくそうとする必要はないのです。違いを違いとして自然に受け入

れていくことを体験する。英語の世界に触れることも、違いを理解する一つの方法となります。そういう意味での「光」、すなわち「国際理解の時間」です。

最後に「力の時間」。力と言えば「強さ」を連想されるでしょうが、それだけではないと思います。考える力、分析する力、確かめる力、また見えないものを数字に表す力……。2つあるものを1つと言ってはいけないし、1つのものを2つと言ってもいけない。そのためにはきちんと数を認識することも必要だし、計算ドリルを繰り返すことも確かに必要です。しかし大切なことは、推論できることではないかと思います。

計算力を身につけること、数を知ることは、数の質と量を考えることでもあるのです。1は大きくても、小さくても1です。だから1は小さくても、とても大きな1なのです。すると子どもたちは計算をすることが自分を知り、相手を知ることにも繋がっていると気づいていくかもしれません。計算ドリルを自習しながら、数を考える時間。つまり「推論学習の時間」です。

これらの時間は、今、必要とされているものではないかと思っています。風、光、力というのは、関西学院の校歌「空の翼」にもあります。関西学院は初等部をつくるということに全精力を注いでいるのです。

## 関西学院を超えた 関西学院の初等部を

磯貝さんのご経歴は。

■磯貝 私祖父は浄土宗の熱心な信徒でした。ですから私が神学部に進学すると聞いたときには驚天動地（笑）。でも、洗礼を受けるときには祖父は教会に来てくれました。「目に見えないものの戸を叩くことは、よろしい」と。

大学入学当初は学生紛争の最中で学校が閉鎖され、教授宅で神学や哲学などを学び、いろいろ考えました。場所がないので考えることしかできなかったのかもかもしれません。でも考えることがこんなに楽しいものなのかと思いました。教授は、一人ひとりの学生に耳を傾けてくれました。自分は本当は何がしたいのか。なぜここに入学している

のかと、始めに戻って問い直しました。最初は聞かれてもきちんと答えられなかった。でも一つひとつ聞かれることで自分が形成されていきました。

それからスウェーデンのウプサラ大学で1年間学び、ヨーロッパ各地を旅しました。そしてアメリカを回って帰国しました。

—— 修士を出られて静岡英和女学院の教諭になられたのですね。

■磯貝 当初は静岡にとどまるとは思わなかった(笑)。友人がたくさんできたこともあって結局30年いました。静岡英和女学院では、新校舎を建設したり、中高のカリキュラムを大きく変えたり、貴重な経験をしました。

—— どのような経緯で関西学院に來られたのでしょうか。

■磯貝 神の声、です(笑)。初等教育に携わりたという夢はありましたが、要請を受けたときは驚きました。でも創立者ランパスらがつくりたかった小学校の理念に共感し、理事長と院長からの「よろしく頼みますよ」という言葉で決意しました。

—— どのような学校になるのか、楽しみですね。

■磯貝 「これこそが小学校」と言えるような学校にしたい。120年近くの関西学院の歴史が生んだものなのです。また、神戸の人たちが待っていた学校にしたい。神戸は関西学院の発祥の地ですし、初等部の敷地は神戸のみなさんが幼い頃遊んだ宝塚ファミリーランド跡地です。みなさんが夢を見た場所から、夢を担う子どもたちが歩き出すのです。ぜひ期待していただきたい、応援していただきたいと思います。

# 磯貝 曉成 (いそがい あきなり)

1948年京都市生まれ。1973年、同志社大学神学部卒業。1975年、同志社大学神学研究科修士課程修了後、静岡英和女学院中学校・高等学校教諭に。2005年、静岡英和女学院中学校・高等学校副校長、学校法人静岡英和女学院常任理事に就任。2006年より関西学院初等部設置準備室副室長。1995年より現在まで、キリスト教学校教育同盟全国中高聖書科研究会委員長。主な著書は「わたしたちの新約聖書」(日本基督教団出版局)など。



<p>確かな信頼と実績。 そして、安心のコンピュータ管理</p> <p><b>TKCコンピュータシステム</b></p>  <p>税理士 <b>吉川弘治事務所</b></p> <p>所長 吉川弘治 (昭和27年経済学部卒業) 税理士 吉川 徹 (昭和61年商学部卒業) 副所長 吉川 徹 (水上新技術OB)</p> <p>神戸市垂水区神田町2-35石井ビル3F TEL.078-705-1515 (代) / FAX.078-706-0280</p>	<p><b>塚本 哲夫</b></p> <p>昭和39年商学部卒業 六甲バター株式会社 代表取締役社長</p> <p>神戸市中央区坂口通1-3-13 TEL.078-231-4681</p> <hr/> <p><b>伊 丹 威</b></p> <p>昭和40年社会学部卒業 株式会社甲南フーズ 代表取締役社長</p> <p>神戸市東灘区御影塚町3-3-25 TEL.078-841-0551 (代)</p>	<p><b>光 葉 貞 男</b></p> <p>昭和29年経済学部卒業 ゴンチャロフ製菓株式会社 代表取締役社長</p> <p>神戸市灘区船寺通4-2-8 TEL.078-881-1188</p> <hr/> <p><b>野澤 和 雄</b></p> <p>昭和39年法学部卒業 株式会社 野澤商店 代表取締役</p> <p>神戸市長田区二葉町10-2-19 TEL.078-731-9771 (代)</p>
--	---	---



# 神戸のお嬢さん

切れ味の良い

ダンスで魅了する

バレリーナ

真来佐和子さん

(バレリーナ)



推薦者 前田 章  
医療法人董会、社会福祉  
法人すみれ会、学校法人  
スミレアカデミー理事長

真来佐和子さんは私の子供たちのバレエの先生であり、家族ぐるみのお付き合いをさせていただいている上月倫子先生が主催する上月バレエ団所属のバレエダンサー。優秀なプリマ候補である彼女を、上月先生は「歯切れのよいシャープな動きが魅力。大胆そうにみえて繊細な神経の持ち主」と評されておりました。我々子供を預けている父兄からみて、彼女の厳しいがいつも笑顔を絶やさない軽快なレッスンは感動すら覚えるところです。今後の成長が楽しみみな神戸育ちのほんとうに魅力的なお嬢さんです。

(Café de 佛蘭西にて)



# 神戸のお嬢さん

若さいっぱい！

明るい笑顔の

お嬢さん

村上 愛さん

(バイエル製薬勤務)

ピチピチ、はつらつ、若さあふれる愛ちゃん。小柄ながら踊りはパワフル。跳んで、まわって、周りに旋風が巻き起こりそうです。

彼女を思う時、いつも笑顔が浮かんできます。その明るさで明るいスタジオをますます明るくしてくれます。

キャンパスギヤルから今は製薬会社のMRとなりました。おそらく会社でもとびっきりの笑顔で周りの人たちを元気にして：お陰で会社の人たちはお菜いらずだったりして。



推薦者 上月倫子  
上月バレエスクール

(Cafe de 佛蘭西にて)



田中まこの  
神戸が撮っても好き⑭



輝く女シリーズ(6)

## 「松本清張スペシャル・共犯者」



先月の9日、夜9時半から日本テレビ(関西ではよみうりテレビ)で放映されたドラマ「輝く女シリーズ(6)」松本清張スペシャル・共犯者」。ごらんになられましたか? 原作は松本清張の同名の短編ですが、今回は主役の共犯者の設定を男性2人から女性2人に変更した推理サスペンスとして作られました。

物語は、2人の女性、内堀江梨子(賀来千香子さん)と町田夏海(とよた真帆さん)が神戸の卸売市場で働いていて出会うところからスタート。共にお金が必要だった2人は、夏海の提案で芦屋の豪邸から1億円盗んでしまいます。8年後、江梨子は人気レストランチェーンの社長として大成

イラスト 川田敦子

功。ところが、ある日、IT企業社長の倭(佐野史郎さん)との会食を写真週刊誌に撮られたことから、共犯者の夏海がその記事を見て、自分を強請に来るのではないかと不安になります。そこで、江梨子は偽名で探偵事務所を訪ね、所長の若杉千香子(室井滋さん)に夏海の居場所の調査を

依頼。夏海が倉敷で詐欺に遭って多額の借金を作って失踪したことが判り……とストーリーは進んでいきます。

この作品の神戸ロケは、先々月、4月中旬に2回に分けて行われました。ドラマの中では回想シーンとして市場、江梨子のお好み焼き屋、芦屋の豪邸、道、神戸の街を見下ろす展望台などが登場するのですが、これらはすべて実際に神戸で撮影。神戸市中央卸売市場本場で、なんと実際に競りをやっている時間にお邪魔して賀来さん、とよたさんのシーンを撮らせて頂きました。市場、そして神戸水産物卸協同組合のみなさん、ご協力ありがとうございました。

江梨子が母親とやっていたお好み焼き屋を撮影したのは、神戸長田丸五市場。実際にはそば焼のお店「いりちゃん」をお好み焼き屋として朝早くから使わせて頂きました。芦屋の豪邸の外観は、旧乾邸。その豪邸へ向かう道は白鶴美術館前の住吉川沿いで撮りました。神戸の街を見下ろしながら2人が話していたのはビ



神戸市中央卸売市場でのロケ風景



長田丸五市場でのロケ風景

「ナスブリッジ。また、ホテルオークラからも神戸の街を撮らせて頂きました。」

そして、ドラマの中で現在のシーンとして登場したのが、探偵役の室井滋さんと小橋賢児さんが聞き込みを行った場所。中央卸売市場はもちろんのこと、長田の丸五市場の「西村鶏肉店」では夜遅くまでロケをさせて頂きました。また、全国各地へ足を延ばす2人が歩いてきた田園地帯は、なんと淡河で撮影。2人が入った居酒屋のシーンを撮ったのは、

三宮にある「青磁や」。室井さんが歩いていったシーンを中央区熊内、小橋さんが歩いていったシーンを三宮のでこぼこ広場などで撮影しました。さらに、高浜岸壁、中突堤、市章山、湊川の荒田公園など、わずか4日間のロケとは思えないほど、神戸市内のあちこちで撮影が行われました。

ドラマのエンディングは悲しかったけれど、神戸がたくさん登場し、撮影で多くの方の温かい協力を得られたことが何よりも嬉しかった「共犯者」でした。



田中まこと

大阪府生まれ。少女時代を米国で過ごし、大学卒業後は番組制作、撮影のコーディネーター、DJなどを手がけ、2000年より神戸フィルムオフィス代表に就任。全国フィルムコミッション連絡協議会理事としても活躍。2003年には国土交通省の「観光カリスマ」に選定される。アジア・フィルム・コミッション・ネットワークの副会長も務める。

神戸フィルムオフィス

神戸市中央区港島中町6-601

神戸国際観光フィルム・コミッション協会

07-606-2021

http://www.kobefilm.jp



# 感じる、音のちから

天宮遙

(ピアニスト・シンガー・ソングライター)

昨年制作された、認知症のお年寄りと言楽療法を取り上げたラジ才関西のドキュメンタリー番組に参加。「全く喋らなくなってしまうお年寄りが、歌うことによつて言葉を発し始めたのです。記憶のひとつかけらを呼び戻すことができるほどの音楽の効果を感じました」。以前、自身のコンサート中に、客席と不思議な一体感を感じ、言葉を越えた音楽の力を改めて体感したことがきっかけで、神戸大学発達科学部に社会人入学。4年間

音楽と心理について学んだ経験を活かし、これからも音楽療法の活動を続けていきたいと語る。

アコヤ真珠が育つ海の環境を守るため立ち上がった神戸のNPO「ひと粒の真珠」活動にも賛同。TEAMソング制作や、植樹活動にも参加している。7月8日（土）に発表される「真珠の詩」の作曲を手がけ、当日はライブを行なう。音のちからを借りた彼女の、透き通った歌声が、神戸のあちこちで静かな感動を呼んでいる。



KOBECCO 2006

amamiya haruka

KOBECCO 2006

A.N.others after the 20th

長いバンド名。「A.N.others」とは匿名の人たち、その他大勢の人々という意味。そして「after the 20th」（20世紀以降）の新しい音楽スタイルを追求している。アジアンテイストの衣装も、型にとらわれない彼らの魅力を引き立てる道具のひとつ。

調整）も自分たちで手がけている。どんな出会いでもいい。いちど彼らの歌を聴けば、その音楽性の質の高さと、芸術には不可欠な「魅了される何か」があなたにも感じられることと思う。

6月19日（月）、7月2日（日）、9月2日（土）いずれも神戸ART HOUSEでライブ予定。その他関東地方でも活動中。三宮駅前で不定期にストリートライブも行なっている。

## カテゴライズ不要の音楽

A.N.others after the 20th (ミュージシャン)

長谷川範明(vo.g) 本間裕之(g) 田代周平(b) 内藤皓介(dr)  
<http://sound.jp/an20>





# 神戸の“まごころ”が 日本の味を支える

## 豊崎水産

に豊崎水産の加工場はある。

ガラガラと扉を開くと年季の入った建物ではあるが、トロ箱や大きなザルが整然と積み重ねられ、白いタイルやステンレスの流し台は輝かんばかりで清潔が保たれている。スタッフは調理台の上で手際よく真紅のサーモンを加工していた。

実はここから、日本を代表するような名だたる料亭やレストランに製品が出荷されている。銀座、赤坂、六本木あたりの名店が名を連ねている出荷先の伝票こそ、トップクラスのグルメやVIPたちに支持されている証なのだ。

**実直な仕事をやがて  
「鉄人」と出会って：**

始業は朝2時半。スタッフ

は全員女性というこの加工場を取り仕切るのは、専務の豊崎輝子さん。あたたかな人柄が滲み出たようなやさしい語り口だが、



中央市場から  
日本を代表する美味が

雑然としながらも活気に満ち、神戸百五十万人の胃袋を支える気概にあふれた神戸市中央卸売市場。行き交う車や台車をかき分けた先、昭和の香り漂う一角

「二十歳で右も左もわからぬ市場にお嫁に来ました。その頃はもう苦勞の連続でしたが、無我夢中で働きました。」という芯の強い「おかみさん」だ。

まっすぐ、そして真面目に「安全で美味しい、そして元氣が出てくるような」商品をと取り組んできた豊崎さんに、大きな転機が訪れたのは平成8年。当時のなだ万総料理長、中村孝明氏との出会いであった。私の記憶が確かならば、人気テレビ番



豊崎輝子さん



娘さんと、中村孝明氏を囲んで

組「料理の鉄人」で「和の鉄人」として活躍していた頃である。豊崎さんのレシピで生み出された魚の稚漬が中村氏の「目」ならぬ「舌」にとまり、以降、大阪や東京のなだ万のおせちに、豊崎さんの味が花を添えるようになり、やがて有名店からの注文が舞い込むようになった。

### 探求心と夢、そして “まごころ”が美味の秘訣

市場のアドバンテージを生かして吟味された素材。手づくりの姿勢を貫く調理加工。ここで生まれた味覚を試食させていた。ヒラメの押し寿司は、肉厚な天然物のヒラメの身が程良く酢で締まっている。トコブシの柔らかさは、大根と炊くという「秘伝」から。クジラの竜田揚げはピーナツやごまを使用した甘辛い衣とミンククジラの柔らかい身が見事にマッチ。車海老を惜しげもなく使用したコロッケ、ハモのすり身のお吸物などどれも上品な味わいだ。調味のバランス、口当たりの良さや食感など、すべてが「これ以上」でも「これ以下」でもない

絶妙な按配なのだ。敏腕の料理人や舌の肥えたグルメたちを唸らせてきたのは、ひとえにこの味覚のセンスにあるのだろう。いや、センスだけでなく、妥協を許さぬ味へのこだわりと、新しい美味しさを求める前向きな姿勢があつてこそだ。

中央市場は老朽化が進んでおり、建て替えの計画が浮上している。豊崎さんの夢は、そこにレストランをつくることだそう。だ。「美味しいものを食べて喜んで頂くことが生きがい。この仕事が好きで仕方がありません」。彼女の味の「真理」は、そんな“まごころ”にある。



キングサーモンの稚漬を仕込む。上質のカナダ産天然サーモンを惜しげもなく…



# 街をきれいに！

## JT神戸支店の取り組み

「捨てる人は、拾わない。  
捨てない人が、拾っている。」

JT神戸支店では、毎月一度JTが全国的に展開している「ひろえば街が好きになる運動」の一環として、市街地の清掃活動をおこなっている。

4月のある水曜日の、JT神戸支店前。揃いの白いユニフォームに身を包んだメンバーが集結。内訳は留守番役数名を除いたJT神戸支店のスタッフ全員と、JTのOBを中心とした愛煙家団体「関西たばこ問題を考える会」のメンバー合わせて約30名だ。ユニフォームの背中にはマナー向上を呼びかけるさまざまなキャッチフレーズが書かれている。「あなたが気付けばマナーが変わる。」と書かれたのぼりも持参する。単なる清掃活動だけでなく、マナー向上の啓蒙活動でもあるのだ。



スタッフの背中には、マナー向上を促すフレーズが



約30人のメンバーが一斉に道をきれいに

## 見えないところに 捨てられている

この日は中山手通→鯉川筋→サンセット通り→生田筋→生田新道→トアロードと周辺を一周するルート。毎回コースは違うそう。約30人が一斉に取りかかりながら道を行く、と言うよりは「征く」というような感じで、彼たちが通った後は見違えるくらいにちり一つ落ちていない。

鯉川筋は一見、きれいで心地よい通りだ。しかし、彼らの鋭い眼光は、見えないところにある吸い殻も逃さない。「たいてい落ちているところは決まっています。側溝のふた、車道の端、植え込みが多いですね」とベテランのメンバーが言うとおり、特に車道の端には意外なほどにゴミが溜まっている。車からのポイ捨てによるものなのだろう。歩道を何気なく歩く視線からは見えないところにゴミが捨てられている現状を、「捨てる」と言うよりは「隠す」という感じですかね。捨てる人にやさしい気持ちがあるからなのでしょう」とJT神戸支店社会環境推進チ

進チームの松島光陽さんは額に汗しながら嘆いた。



街の死角に吸い殻は多い

## 清掃は確かに大切 心がけはもっと大切

「ひろえば街が好きになる運動」は、神戸まつりやみなとまつりでも展開するそう。だが「心がけ」ひとつ。それが街をきれいにする。

サンセット通りから三宮の駅に近づくにつれ、心なしか吸い殻の量も増えていく。灰皿の近くでも平気で捨てられている現状には驚いた。散らかっている吸い殻はもちろん、植え込みの奥に捨てられている空き缶などもいてねいに拾う。トアロードを上げる頃には、約30人が手にしたゴミを入れる袋はもう一杯。こんなにもゴミが溢れているのかというのが正直な感想だ。



堀井勝支店長も進んで参加





# 31年間

ありがとうございました

## 薔薇と薔薇

血は韓国人、  
心は日本人。  
そして…  
ふるさは神戸です  
茂山貞子さん

「在日修羅の詩」が話題をよんでいる茂山貞子さん  
神戸一の高級クラブ「薔薇と薔薇」  
ママとしての31年間の歴史に幕を下ろした。

「これはつの区切り」という茂山さんにお話しをお伺いした。

—「薔薇と薔薇」の閉店は大輪の花が咲き切ったという感じでした。茂山さんは今、どんなお気持ちですか。

**茂山** 感無量のひとことです。28周年を迎えたところから、クラブという世界からどんなふう引退するのがいいのかと考えていました。元気なうちに、みなさんに祝ってもらいながら幕を下ろしたいという私なりの美学を持っていましたから。

当日は、お店が壊れてしまうんじゃないかと心配するほど大勢の方々に来ていただき、31年間かわいがっていただいたことに、ただただ感謝の気持ちでいっぱいです。

—そして「在日修羅の詩」出版おめでとうございます。すばらしい本になりましたね。

**茂山** このタイトルは編集者の方とさんざん考えて付けたものです。私は「在日」か「コリアン」は決して外せない信念を持っていました。そして流れるように美しく「詩」…。私が子どものころは、このインターナショナルな神戸の街ですら、流れ流れて来た在日一世が暮らす場所に限られた集落でしたし、いじめも受けました。けれど、私はこの本で「差別された」ということを言おうとしたわけではなく、58年間生きてきた中で起こった出来ごとを、ありのままに淡々と書き残そうと思っただけです。「苦勞してきたんやなあ」とか、他の国籍を持つ人なら「私もそんな思いをした」と感じたりするでしょうし、今の若い人なら「そんなことがあ

ったんや」と初めて知るでしょう。どういう捉え方をするかは、読み手次第ですからね。

—神戸の街にはどんな思いをお持ちですか。

**茂山** 私は神戸で生まれ、中学まで神戸で育ちました。本にも書きましたが、いろいろなことがあり、正直言って当時は神戸には良い印象はなかったですね。そして、大阪から東京へ行き、友達が自殺するという悲しい出来ごとがあった時、「帰ろう…」と思ったのは「ふるさと」神戸でした。そして半年ほどしてスナック「ファニー」を開店しました。離婚後、再出発する時も、「もう一度、自分を試してみよう」と思ったのも、神戸でしか考えられませんでした。北には山が見え、南には海が見える細

長い街。ここが、私にとって一番「ホッとする」場所だと気付いたからです。

—そして、震災…。

**茂山** このオシャレな街が瓦礫の山になったことが悲しくて、直後は涙も出ませんでした。お店が、ある日突然、潰れてしまったんですから…。京都に避難はしたものの、気になって気になって…、一週間で帰って来てしまいました。そして、中山手の幹線沿いにクラブとしてお店を再開しました。

—茂山流の神戸らしいお店づくりは？

**茂山** スナックを始めた昭和45年ごろ、単に椅子とボックスがあるというのではなく、他府県から来たお客さんに「やっぱり神戸は違うなあ」と言っ

ただけるようなお店にしたいと思っていました。そして「クラブ」を開店しようとしたとき、私はまだ30代でしたから、他の先輩ママたちと肩を並べるわけにはいきません。それで、楽しみ方をお客様に自由に選んでいただける「ラウンジ」という新しい形をつくりました。その後、三宮にはラウンジが次々できて、クラブとの違いがなくなりましたが…。

—新しいことが好きなのところは、生粋の神戸っ子ですね。

**茂山** 私は「神戸っ子」だと思っ  
ていますよ。生まれ育った土地、話すことばが、その人の物の考え方や生き方を大きく左右すると思います。在日コリアンが日常生活で「自分は在日」と意識することなんかほとんどありません。結構、不便なことも多くて、そんな時に気付くぐらいです。ここ10

ます。良い、悪いというのではなく、考え方の問題です。私は「心は日本人、血は韓国人」と思っています。

—今後について、どのようにお考えですか。

**茂山** 「薔薇と薔薇」を終わるときお客様に「三宮のネオンが、またひとつ消える。寂しくなるなあ」と言われました。私は「消える」と違います。ネオンが細胞分裂して増えるんです」と答えました。これは一つの区切り。クラブの世界からは卒業ですが、焼肉店やカジュアルバーもやっていきますし、若い子たちも私のそばで、また新しいことをやらせて欲しいと言ってくれています。今までにないシステムとお店づくりを考えています。昼の経済と夜のネオン街の賑わいは連動するといえます。相乗効果でもっともつと神戸の街を盛り上げていきたいですね。やっぱり私は「あたらしもん好き」の神戸っ子ですね。（小泉）



「在日 修羅の詩」茂山貞子 講談社 1,600円

りません。結構、不便なことも多くて、そんな時に気付くぐらいです。ここ10年ほどで、帰化もし易くなりました。でも私は躊躇し







●ある集い●二木会

## 第2木曜を楽しみに

毎月第2木曜日の午後6時30分から、市内の料亭やレストランを会場として、夕食を囲み、懇談を楽しみながら、メンバーの交流を深めています。

この会は、会則も会長・副会長などの役員もなく、毎月持回りの「幹事」さんが、会場と料理の種類や当日のプログラムの進行まで、すべての責任で例会を運営することになっています。

昭和57年に、それまであった貿易関連業種の昼食会を改組して、新しく県内の貿易業、運送業、建設業、ビルメンテナンス業、設計事務所、翻訳業、貴金属商、シャンソン歌手などが「異業種交流の場」として毎月第2木曜日の夜に例会を開くことで合意し「二木会」と命名されました。

この会が発足して24年。阪神・淡路大震災までは、100名近くまで会員が増えましたが、その後、景気の低迷や会員の高齢化も段々と進み、現在は25名を前後しながらも、ますます親交を深めております。

毎月の例会には、夫婦や親しい友人を同伴する人も多く、名古屋市へ転居後も、年に数回は例会に出席してくるメンバーもいて、皆さんは本当に毎月の例会を楽しみにしております。

貴方も仲間に加わってみませんか？

■事務局 078・521・7868(渡邊)



●ある集い●はちのす会

## 楽しく木彫を学び、輪を広げる

木彫「はちのす会」は、昭和33年に創設され、現在70名の会員により、活動を展開しております。西宮に本部があり、会長は渡辺一生、副会長は渡辺二笙、会員は月に2回本部教室に通って制作を進めながら、師範として各自の地元にて活動をしております。

会員の中には、関西のほか、名古屋や北陸、九州在住の方もおり、指導は各地域のカルチャーセンターなどにておこなっております。最近では、団塊の世代の男性受講者も多く、今後も広く木彫の輪を広げていきたいと意気込んでいます。

今回のさんちかホールでの作品展は、3年振りで力作が勢揃い、レリーフや大型鏡、立体作品やテーブル、いす、衝立てなど各自が手がけた作品の他ほか、動くメリーゴーランドやドレミファ音楽隊など生き生きとした表情の子供たちや、いぬ年にちなんで、数々の犬のレリーフや立体なども並び、盛りだくさんの会場となりました。

これからも木彫の魅力をさらに皆様にお伝えしていきます。

入会希望者や木彫に関して何かお問い合わせがございましたら、木彫はちのす会本部まで。

■はちのす会 西宮市千歳町4-1-2  
☎0798・23・3300





野田千晶さんと

濱田雅子さんは、1944年生まれ、高松市で親族が医師ばかりの恵まれた環境の中で育ち、夫は高校教諭だったため、周囲の大反対にあいながらも40歳の時に家庭料理の店「ハイカラ亭」を開店。突然の長男の交通事故死、離婚等のストレスにより発症した難病「ベーチエット病」に苦しみ、何度も自殺を考えるが、次男や母親を思うと死にきれず、病魔と闘いながら「ハ

「若いころ、私は死ぬことばかり考えていました」。

## 濱田雅子さん出版記念会 ホテルオークラ神戸で

「21世紀に キラキラ輝く女性たち  
生きる力が湧いてくる本」(経済界1600円)



イカラ亭」を大繁盛させる。その後、高級ラウンジに転換し3店舗を展開、四国を代表する女性経営者となる。2000年9月にナチュラリープラスのビジネスを開始。今までのネットワークビジネスにない「スーパールティン」(サブプリメント)の商品システムは、まずノルマと月末締めがないので、未経験者でも短期間で組織を大きくできる仕組みがある。初期投資は、入会金(登録料)が3000円、「スーパールティン」の代金が1万円、出荷事務手数料が1000円のみ。商品の在庫、管理、出荷、配達、集金はすべて会社。そして「バイナリーオート」という合理的なシステムで、「おばちゃん向き」「中高年者向き」のビジネスといえる。さらに、このサブプリメントを飲んだ母親がすっかり元気になり、濱田さんも難病を癒すため愛飲者になった。

濱田さんは、系列やグループを越えた支援や交流を行なうという、ナチュラリープラス独特の文化の構築に多大な



貢献をし、「ナチュラリール  
ラスの母」と呼ばれている。  
さらに、この本には濱田雅  
子さんと苦楽を共にした「若  
くて、元気で、心もリッチ」と  
いう11人の女性たちが紹介さ  
れている。

滝藤三鎮子さん、芝邦子さ  
ん、野田千晶さん、佐々木真  
弓さん、土田ふさえさん、北  
川ヤヨイさん、須甲啓子さん、  
工藤あずまさん、村上八五子  
さん、赤嶺のり子さん、堤京  
子さん。ごくフツウのおばち  
やんたちが、ナチュラリール  
ラスの活動を通じて、自分の  
持ち味や長所に気づき、それ  
を最大限に生かしながら頑張  
った結果サミットメンバー(月  
収7ヶタ以上の会員)になり、  
グループの垣根を越えて、手  
弁当で全国を飛び回り、同時  
に自分磨きも忘れないという  
すてきな女性たちだ。

5月4日の夕べ、ホテル  
オークラ神戸で開催された出  
版記念会は、濱田雅子さんと  
11人の女性たちを中心に「女  
性の力が未来を変える」とパ  
ワフルに500人が大集合し  
た。



## 濱田雅子さん 新築披露に集う



新築のサロンで大森るり子さん、濱田雅子さん、杉野早苗さん、芝邦子さん（左から）

高松市に新築された濱田雅子さんの「ナチプラ御殿」の披露は、女性パワーが未来を変えろ！という威力充分のキラキラ輝く館。苦難の道から立ち上がり、「ナチプラの母」と呼ばれるシンボリックな女性に、仲間たちが集うサロンでインタビュー。

**濱田** 一昨年ヨーロッパ旅行をしまして、このサロンにきりめいていますシャンデリアに出会って「あらきれいな」と魅せられて買ってしまいました（笑）。このシャンデリアを生かした家を建てよう。母の調子が良くなかったので、何とか元気な間に建てなくて

はということ、やっとここまでこぎつけました。

このサロンは「ナチプラ」の仲間が集えるお茶飲み場としてつくりましたので、ぜひご利用いただければと思います。こは、おばちゃんたちが喜ぶ家がテーマです（笑）。泊りがけで来ていただいて、



お風呂にもゆつくり浸かって「ナチプラ」交流をなさってください。

— 1・2 階を拝見して濱田さんのサービスピ精神を感じました。

濱田 都会なら、ホテルのロ



ビーがあるけれど、それよりも濱田さんのところでお茶をって、人が集まるのが大事だし、楽しいじゃない？ここが完成してから毎日70名くらい集まってきて。

落ち着いたらコンサートや टीブルマジックなんていうイベントもやってみたいわね。お友達や地域の人を招いて、みんなと一緒に楽しく。クリスマスパーティーなども企画していきたいですね。

「ナチプラ」と「葵シヤパン」の旗がひらめいて、豪華客船に乗船した気分ですね。

濱田 息子の会社の旗を揚げたり、日の丸だった。まあ看板ですね。

— 出版記念会は神戸で大盛況。

濱田 私と11人のおばちゃんたちのパワーで、500人ほどがホテルオークラ神戸に集っていただき、ありがたいと感謝しています。

女性の力は、子育てをしているから絶対強いんですよ。「ナチュラ

リープラス」のいいところは、女性も男性も、リーダーたちがすてきだということです。今日も、このへんびなところへリーダーたちが集ってください、やはり力のある人ばかりが残って、「ナチプラ」はいい人たちの集団なんですよ。

— 次に目指されているものは。

濱田 ボランティア活動ですね。人々のために。アジアの子供たちを助けたいんです。助けたアジアの子供たちと、日本の子供たちが交流できるような企画をしたい。というのは、日本の子供たちのためでもあって、今、日本の子供たちは異常でしょう。グループの違う会社を4人で立ち上げた。井戸を16ヶ所掘って、学校を造る。16ヶ所井戸を掘ると4万人の生命が助かるそうなので、ちゃんとやって行こうと思います。

本を書いて判ったことは、私は難病（ペイチェット病）を抱えていて、まだ世の中への貢献が足りないということ。これからは、ボランティア活動に真剣に取り組むつもりです。

（小泉）